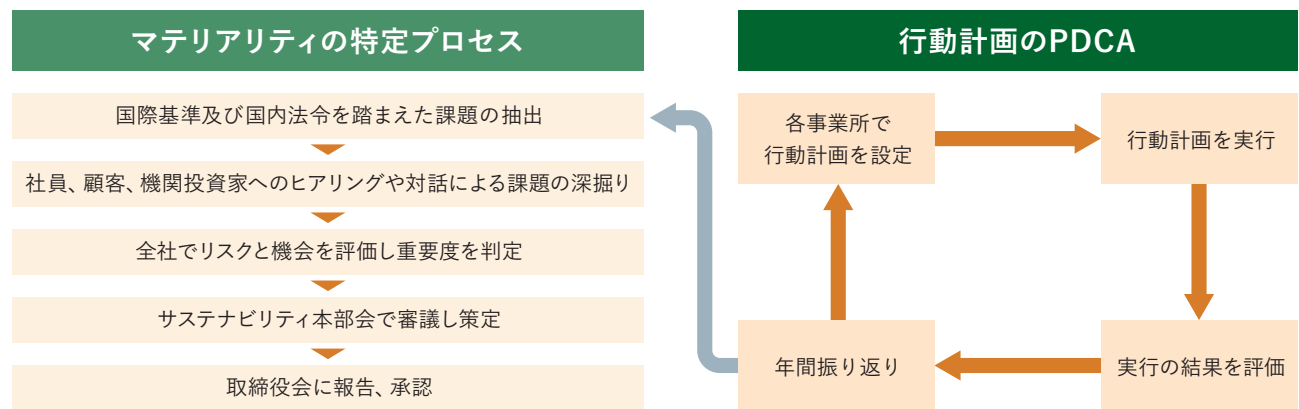


マテリアリティ

ダイセキでは、環境保全と環境創造に貢献するビジネスモデルを構築し、社会を支えながら持続的に成長していくために、5つのマテリアリティ^{※1}を特定して取り組みを推進しています。中長期的な企業価値のより一層の向上のため、各マテリアリティに関する具体的なKPI^{※2}の策定も進めています。外部環境やステークホルダーからの要請の変化等を踏まえて継続的に見直しを行っていきます。

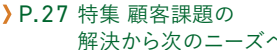
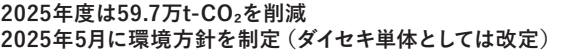
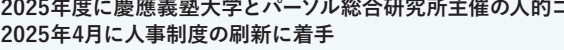
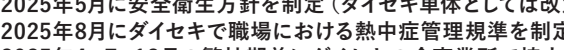
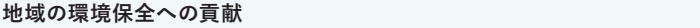
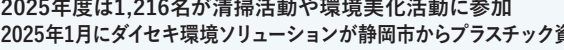
》 特定プロセス

ダイセキでは幅広く課題を抽出し、社内外のヒアリングや対話を重ねて課題の深掘りを行っています。TCFDシナリオ分析やISO14001に基づくリスクと機会の分析結果も考慮し、サステナビリティ本部会で策定後、取締役会の承認を得てマテリアリティを決定しています。



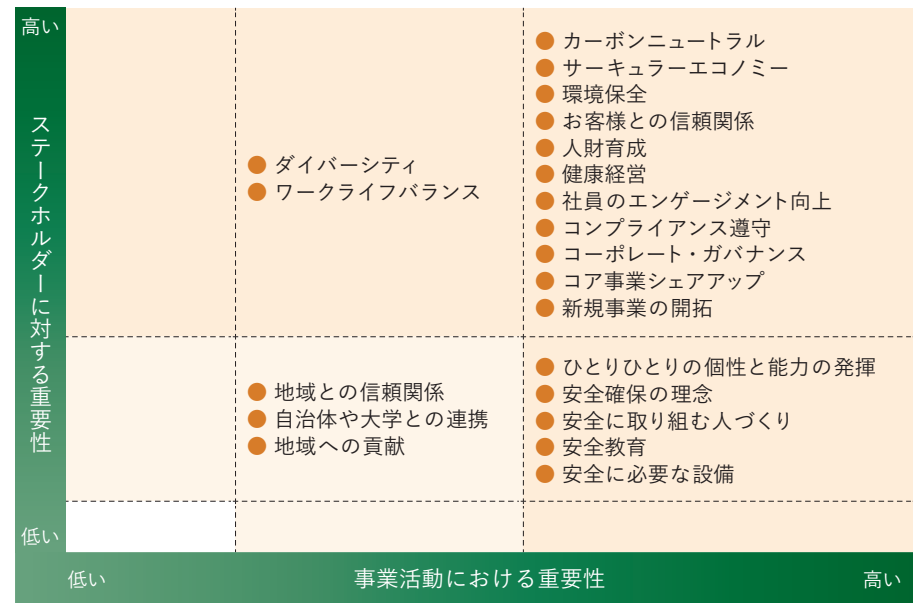
》 ダイセキのマテリアリティ

ダイセキでは、パーパスや経営理念に基づく各種指針・方針をベースに、5つのマテリアリティを特定しています。各マテリアリティにはそれぞれ重要項目を定め、行動計画を設定しPDCAを実践しています。また、中長期的な達成度を測るためのKPI・目標の策定も進めています。

マテリアリティ	マテリアリティの達成に向けた取り組み	目標	実績
 限られた資源を活かして使う	 P.27 特集 顧客課題の解決から次のニーズへ	 カーボンニュートラル	 2025年度は59.7万t-CO ₂ を削減 2025年5月に環境方針を制定（ダイセキ単体としては改定）
 ひとりひとりの個性が輝く職場づくり	 P.41 人的資本経営の強化	 ダイバーシティ	 2025年度は15.3万tを出荷 2025年5月に環境方針を制定（ダイセキ単体としては改定）
 労災事故と環境事故の撲滅	 安全を全てに優先させる理念の浸透	 安全	 2025年3月に社員の配偶者の健康診断費用の補助開始 2025年5月に人権方針を制定
 地域社会から愛される企業	 安全確保に必要な教育の実施と設備の配置	 安全	 2025年度に慶應義塾大学とパーソル総合研究所主催の人的コンソーシアムに11名が参加 2025年4月に人事制度の刷新に着手
 強固なコンプライアンス・法令遵守の周知・徹底	 地域の環境保全への貢献	 地域社会	 2025年度は1,216名が清掃活動や環境美化活動に参加 2025年1月にダイセキ環境ソリューションが静岡県からプラスチック資源再商品化連携事業者に選定
	 災害復旧支援による社会インフラの維持	 ダイセキの実績	 2025年9月に新潟県上越地域の大雨で浸水した罹災企業の復旧を支援
	 ガバナンス体制の強化とコンプライアンス教育の実施	 ガバナンス	 2025年度は2件
	 P.57 コーポレート・ガバナンス	 ガバナンス	 2025年5月に腐敗防止方針を制定
			 2026年6月に外部の経営者を招き経営者と次世代リーダー向けの勉強会を開催

》 重要性評価

マテリアリティの重要性については、「ステークホルダーに対する重要性」と「事業活動における重要性」の2軸で評価を行っています。サステナビリティの観点と連動を図りながら、中長期的な視点で企業価値向上を促進しています。



指針・方針	環境方針	安全衛生方針	人権方針	腐敗防止方針	行動規範
	 環境方針	 安全衛生方針	 人権方針	 腐敗防止方針	 行動規範

※1 マテリアリティ：企業が事業活動を行う上で、特に重要だと考えている課題や、優先的に取り組むべき課題のこと
※2 KPI：目標に向けた進捗状況を評価するための指標。Key Performance Indicator(重要業績評価指標)の略